

(2) 各職種の支援の実態調査（アンケート調査）

①目的

本調査は、それぞれの支援にどの職種が関わっているかを調査するために実施している。

ここでは、児童発達支援センター・児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・保育所等訪問・居宅訪問型児童発達支援・医療型児童発達支援において、「質の良い支援」を担保するために各職種の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理士・保育士・児童指導員・看護師が、各専門職分野にどれだけ関わっているのか、また、集団活動・保護者支援に関する実態は誰が主に担っているのか、どの程度関わっているのかをアンケート調査の結果より考察する。

②概要

I. 調査対象

全国児童発達支援協議会（CDS）加盟の児童発達支援センター、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所（513）

II. 回答者

管理者又は児童発達管理責任者

III. 実施方法

アンケート回答用の回答フォームを Google フォームで作成し、回答者に直接入力・登録していただく方法で実施した。具体的には、Web サイトの URL、QR コードを含む調査の実施方法が記載された依頼文及び調査票を、全国児童発達支援協議会（CDS）から加盟団体へメールおよび FAX にて送付した。

IV. 実施時期

令和4年9月21日～10月20日

V. 回収結果

対象件数	有効回答数
513	168

VI. 調査項目

本人支援、集団活動、保護者支援の3つのカテゴリーにおいて、一般的に各職種が行っている主な支援内容を事業担当 WG 内で検討した上で、次のそれぞれの

支援内容をどの職種（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理職、看護職、児童指導員、保育士）が担っているか質問した。

本人支援	集団活動	保護者支援
運動発達	集団活動の行動観察	発達状態の説明
運動障害（麻痺、形成不全等）	生活環境の観察	家庭での関わり、家庭生活へのアドバイス
上肢機能・操作性・巧緻性	集団活動への参加	障害の理解、受容
姿勢管理		カウンセリング
車椅子・座位保持		研修
装具		情報提供
ADL		虐待予防を念頭においた対応やアドバイス
感覚統合		
目と手の協応		
道具の操作		
眼球運動		
摂食機能		
話す		
聞く		
コミュニケーション		
発声		
発音・構音		
人工内耳・補聴器		
手話		
サイン言語		
聴力検査		
発達検査・知能検査		
その他の心理検査		
社会性の育ち		
発達にあった遊びの構築		
認知機能		

③結果

各種支援の実態調査	保育士		児童指導員		PT		OT		ST		心理職		看護職	
(1) 本人支援① [運動発達]	136	(84%)	124	(83%)	54	(93%)	75	(91%)	31	(40%)	23	(34%)	29	(42%)
(1) 本人支援① [運動障害 (麻痺、形成不全等)]	58	(36%)	57	(38%)	51	(88%)	57	(70%)	19	(24%)	5	(7%)	31	(45%)
(1) 本人支援① [上肢機能・ 操作性・巧緻性]	88	(54%)	79	(53%)	43	(74%)	69	(84%)	29	(37%)	14	(21%)	21	(30%)
(1) 本人支援① [姿勢管理]	103	(64%)	97	(65%)	54	(93%)	71	(87%)	36	(46%)	15	(22%)	35	(51%)
(1) 本人支援① [車椅子・座 位保持]	69	(43%)	61	(41%)	52	(90%)	52	(63%)	20	(26%)	6	(9%)	26	(38%)
(1) 本人支援① [装具]	44	(27%)	40	(27%)	45	(78%)	37	(45%)	6	(8%)	2	(3%)	19	(28%)
(1) 本人支援① [ADL]	116	(72%)	108	(72%)	45	(78%)	68	(83%)	39	(50%)	25	(37%)	38	(55%)
(1) 本人支援① [感覚統合]	112	(69%)	99	(66%)	23	(40%)	70	(85%)	31	(40%)	21	(31%)	15	(22%)
(1) 本人支援① [目と手の協 応]	122	(75%)	109	(73%)	30	(52%)	76	(93%)	44	(56%)	31	(46%)	17	(25%)
(1) 本人支援① [道具の操作]	129	(80%)	112	(75%)	31	(53%)	75	(91%)	41	(53%)	27	(40%)	18	(26%)
(1) 本人支援① [眼球運動]	73	(45%)	68	(46%)	21	(36%)	60	(73%)	35	(45%)	18	(26%)	17	(25%)
(1) 本人支援① [摂食機能]	87	(54%)	76	(51%)	27	(47%)	41	(50%)	65	(83%)	14	(21%)	35	(51%)
(1) 本人支援① [話す]	138	(85%)	126	(85%)	12	(21%)	39	(48%)	73	(94%)	35	(51%)	23	(33%)
(1) 本人支援① [聞く]	138	(85%)	126	(85%)	12	(21%)	41	(50%)	72	(92%)	36	(53%)	23	(33%)
(1) 本人支援② [コミュニ ケーション]	145	(90%)	133	(89%)	27	(47%)	55	(67%)	74	(95%)	52	(76%)	33	(48%)
(1) 本人支援② [発声]	110	(68%)	99	(66%)	13	(22%)	35	(43%)	75	(96%)	34	(50%)	21	(30%)
(1) 本人支援② [発音・構音]	69	(43%)	59	(40%)	6	(10%)	18	(22%)	74	(95%)	15	(22%)	16	(23%)
(1) 本人支援② [人工内耳・ 補聴器目]	28	(17%)	21	(14%)	1	(2%)	5	(6%)	40	(51%)	4	(6%)	14	(20%)
(1) 本人支援② [手話]	35	(22%)	31	(21%)	4	(7%)	5	(6%)	35	(45%)	4	(6%)	6	(9%)
(1) 本人支援② [サイン言語]	77	(48%)	70	(47%)	13	(22%)	23	(28%)	60	(77%)	21	(31%)	23	(33%)
(1) 本人支援② [聴力検査]	4	(2%)	2	(1%)	0	(0%)	2	(2%)	24	(31%)	3	(4%)	2	(3%)
(1) 本人支援② [発達検査・ 知能検査]	20	(12%)	19	(13%)	3	(5%)	14	(17%)	35	(45%)	52	(76%)	4	(6%)
(1) 本人支援② [その他の心 理検査]	13	(8%)	11	(7%)	2	(3%)	13	(16%)	19	(24%)	39	(57%)	1	(1%)
(1) 本人支援② [社会性の育 ち]	144	(89%)	129	(87%)	25	(43%)	48	(59%)	52	(67%)	49	(72%)	26	(38%)
(1) 本人支援② [発達にあっ た遊びの構築]	145	(90%)	125	(84%)	27	(47%)	55	(67%)	51	(65%)	43	(63%)	26	(38%)
(1) 本人支援② [認知機能]	134	(83%)	118	(79%)	16	(28%)	60	(73%)	61	(78%)	50	(74%)	25	(36%)
(2) 集団活動 [集団活動の行 動観察]	147	(91%)	135	(91%)	35	(60%)	59	(72%)	52	(67%)	55	(81%)	34	(49%)
(2) 集団活動 [生活環境の観 察]	140	(86%)	129	(87%)	33	(57%)	56	(68%)	44	(56%)	42	(62%)	39	(57%)
(2) 集団活動 [集団活動への 参加]	148	(91%)	137	(92%)	34	(59%)	58	(71%)	48	(62%)	45	(66%)	37	(54%)
(3) 保護者 [発達状態の説明]	130	(80%)	115	(77%)	46	(79%)	60	(73%)	68	(87%)	57	(84%)	28	(41%)
(3) 保護者 [家庭での関わ り、家庭生活へのアドバイス]	137	(85%)	122	(82%)	48	(83%)	66	(80%)	70	(90%)	56	(82%)	42	(61%)
(3) 保護者 [障害の理解、受 容]	127	(78%)	115	(77%)	35	(60%)	48	(59%)	54	(69%)	57	(84%)	34	(49%)
(3) 保護者 [カウンセリング]	59	(36%)	46	(31%)	11	(19%)	17	(21%)	29	(37%)	48	(71%)	15	(22%)
(3) 保護者 [研修]	92	(57%)	85	(57%)	36	(62%)	51	(62%)	57	(73%)	44	(65%)	26	(38%)
(3) 保護者 [情報提供]	131	(81%)	119	(80%)	45	(78%)	59	(72%)	64	(82%)	54	(79%)	41	(59%)
(3) 保護者 [虐待予防を念頭 においた対応やアドバイス]	114	(70%)	104	(70%)	25	(43%)	39	(48%)	41	(53%)	47	(69%)	34	(49%)

④分析・考察

I. 分析

まず、本人支援の各項目が、一般的には、主にどの専門職が担っていると考えられているか検討し、以下のように整理した。

PT (理学療法士)	(1) 本人支援① [運動発達]
	(1) 本人支援① [運動障害 (麻痺、形成不全等)]
	(1) 本人支援① [上肢機能・操作性・巧緻性]
	(1) 本人支援① [姿勢管理]
	(1) 本人支援① [車椅子・座位保持]
	(1) 本人支援① [装具]
OT (作業療法士)	(1) 本人支援① [ADL]
	(1) 本人支援① [感覚統合]
	(1) 本人支援① [目と手の協応]
	(1) 本人支援① [道具の操作]
	(1) 本人支援① [眼球運動]
ST (言語聴覚士)	(1) 本人支援① [摂食機能]
	(1) 本人支援① [話す]
	(1) 本人支援① [聞く]
	(1) 本人支援② [コミュニケーション]
	(1) 本人支援② [発声]
	(1) 本人支援② [発音・構音]
	(1) 本人支援② [人工内耳・補聴器目]
	(1) 本人支援② [手話]
	(1) 本人支援② [サイン言語]
	(1) 本人支援② [聴力検査]
心理 (臨床心理士 公認心理師等)	(1) 本人支援② [発達検査・知能検査]
	(1) 本人支援② [その他の心理検査]
	(1) 本人支援② [社会性の育ち]
	(1) 本人支援② [発達にあった遊びの構築]
	(1) 本人支援② [認知機能]

その上で、各職種がそれぞれの項目にどこまで関わっているか整理したものが次の表である。関係性が、高いものに色をつけた。

50%以上 肌色 60~80%オレンジ色 80%以上 赤色

各種支援の実態調査	保育士	児童指導員	PT	OT	ST	心理職	看護職
(1) 本人支援① [運動発達]	136 (84%)	124 (83%)	54 (93%)	75 (91%)	31 (40%)	23 (34%)	29 (42%)
(1) 本人支援① [運動障害 (麻痺、形成不全等)]	58 (36%)	57 (38%)	51 (88%)	57 (70%)	19 (24%)	5 (7%)	31 (45%)
(1) 本人支援① [上肢機能・操作性・巧緻性]	88 (54%)	79 (53%)	43 (74%)	69 (84%)	29 (37%)	14 (21%)	21 (30%)
(1) 本人支援① [姿勢管理]	103 (64%)	97 (65%)	54 (93%)	71 (87%)	36 (46%)	15 (22%)	35 (51%)
(1) 本人支援① [車椅子・座位保持]	69 (43%)	61 (41%)	52 (90%)	52 (63%)	20 (26%)	6 (9%)	26 (38%)
(1) 本人支援① [装具]	44 (27%)	40 (27%)	45 (78%)	37 (45%)	6 (8%)	2 (3%)	19 (28%)
(1) 本人支援① [ADL]	116 (72%)	108 (72%)	45 (78%)	68 (83%)	39 (50%)	25 (37%)	38 (55%)
(1) 本人支援① [感覚統合]	112 (69%)	99 (66%)	23 (40%)	70 (85%)	31 (40%)	21 (31%)	15 (22%)
(1) 本人支援① [目と手の協応]	122 (75%)	109 (73%)	30 (52%)	76 (93%)	44 (56%)	31 (46%)	17 (25%)
(1) 本人支援① [道具の操作]	129 (80%)	112 (75%)	31 (53%)	75 (91%)	41 (53%)	27 (40%)	18 (26%)
(1) 本人支援① [眼球運動]	73 (45%)	68 (46%)	21 (36%)	60 (73%)	35 (45%)	18 (26%)	17 (25%)
(1) 本人支援① [摂食機能]	87 (54%)	76 (51%)	27 (47%)	41 (50%)	65 (83%)	14 (21%)	35 (51%)
(1) 本人支援① [話す]	138 (85%)	126 (85%)	12 (21%)	39 (48%)	73 (94%)	35 (51%)	23 (33%)
(1) 本人支援① [聞く]	138 (85%)	126 (85%)	12 (21%)	41 (50%)	72 (92%)	36 (53%)	23 (33%)
(1) 本人支援② [コミュニケーション]	145 (90%)	133 (89%)	27 (47%)	55 (67%)	74 (95%)	52 (76%)	33 (48%)
(1) 本人支援② [発声]	110 (68%)	99 (66%)	13 (22%)	35 (43%)	75 (96%)	34 (50%)	21 (30%)
(1) 本人支援② [発音・構音]	69 (43%)	59 (40%)	6 (10%)	18 (22%)	74 (95%)	15 (22%)	16 (23%)
(1) 本人支援② [人工内耳・補聴器目]	28 (17%)	21 (14%)	1 (2%)	5 (6%)	40 (51%)	4 (6%)	14 (20%)
(1) 本人支援② [手話]	35 (22%)	31 (21%)	4 (7%)	5 (6%)	35 (45%)	4 (6%)	6 (9%)
(1) 本人支援② [サイン言語]	77 (48%)	70 (47%)	13 (22%)	23 (28%)	60 (77%)	21 (31%)	23 (33%)
(1) 本人支援② [聴力検査]	4 (2%)	2 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	24 (31%)	3 (4%)	2 (3%)
(1) 本人支援② [発達検査・知能検査]	20 (12%)	19 (13%)	3 (5%)	14 (17%)	35 (45%)	52 (76%)	4 (6%)
(1) 本人支援② [その他の心理検査]	13 (8%)	11 (7%)	2 (3%)	13 (16%)	19 (24%)	39 (57%)	1 (1%)
(1) 本人支援② [社会性の育ち]	144 (89%)	129 (87%)	25 (43%)	48 (59%)	52 (67%)	49 (72%)	26 (38%)
(1) 本人支援② [発達にあった遊びの構築]	145 (90%)	125 (84%)	27 (47%)	55 (67%)	51 (65%)	43 (63%)	26 (38%)
(1) 本人支援② [認知機能]	134 (83%)	118 (79%)	16 (28%)	60 (73%)	61 (78%)	50 (74%)	25 (36%)
(2) 集団活動 [集団活動の行動観察]	147 (91%)	135 (91%)	35 (60%)	59 (72%)	52 (67%)	55 (81%)	34 (49%)
(2) 集団活動 [生活環境の観察]	140 (86%)	129 (87%)	33 (57%)	56 (68%)	44 (56%)	42 (62%)	39 (57%)
(2) 集団活動 [集団活動への参加]	148 (91%)	137 (92%)	34 (59%)	58 (71%)	48 (62%)	45 (66%)	37 (54%)
(3) 保護者 [発達状態の説明]	130 (80%)	115 (77%)	46 (79%)	60 (73%)	68 (87%)	57 (84%)	28 (41%)
(3) 保護者 [家庭での関わり、家庭生活へのアドバイス]	137 (85%)	122 (82%)	48 (83%)	66 (80%)	70 (90%)	56 (82%)	42 (61%)
(3) 保護者 [障害の理解、受容]	127 (78%)	115 (77%)	35 (60%)	48 (59%)	54 (69%)	57 (84%)	34 (49%)
(3) 保護者 [カウンセリング]	59 (36%)	46 (31%)	11 (19%)	17 (21%)	29 (37%)	48 (71%)	15 (22%)
(3) 保護者 [研修]	92 (57%)	85 (57%)	36 (62%)	51 (62%)	57 (73%)	44 (65%)	26 (38%)
(3) 保護者 [情報提供]	131 (81%)	119 (80%)	45 (78%)	59 (72%)	64 (82%)	54 (79%)	41 (59%)
(3) 保護者 [虐待予防を念頭においた対応やアドバイス]	114 (70%)	104 (70%)	25 (43%)	39 (48%)	41 (53%)	47 (69%)	34 (49%)

全体職種間の相関関係を見ると、下記の表になる。(表1)

	保育士	児童指導員PT	OT	ST	心理職	看護職
保育士						
児童指導員	0.998					
PT	0.454	0.473				
OT	0.732	0.742	0.787			
ST	0.580	0.569	-0.135	0.088		
心理職	0.587	0.579	0.049	0.225	0.519	
看護職	0.733	0.750	0.717	0.631	0.390	0.377

	非常に高い(0.9 以上)
	高い(0.7~0.9 未満)
	相関あり(0.5~0.7 未満)

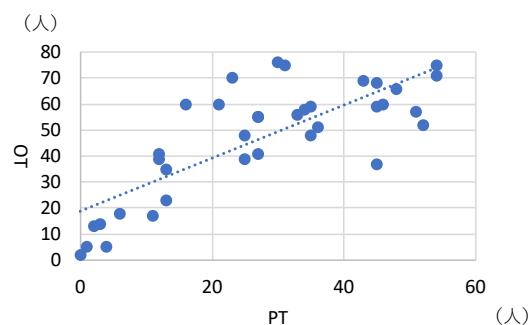
上記に示した表からもわかるように、0.5 以上、0.7 以上、0.9 以上と色分けしているがその縦横の職種同士が、相関関係があることがわかる。

これらを各職種間において、実数を散布図にあらわしてみると、次のようになる

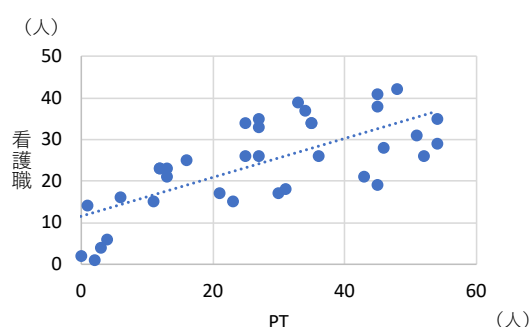
散布図では、ある一つの質問項目に対して特定の職種の人が、「支援している」と答えた人数を横軸とし、別の職種の人が、同じ質問に「支援している」と答えた人数を縦軸として、その2つの職種の相関関係を見ている。

●質問3 6項目において各職種間で支援していると答えた人数の散布図

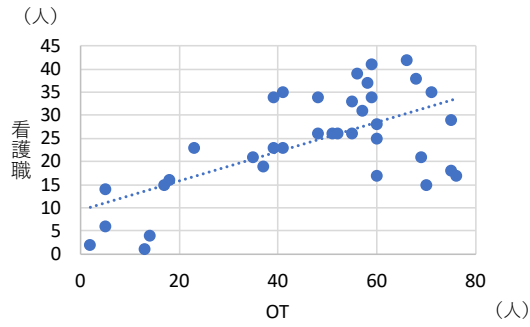
PTとOT



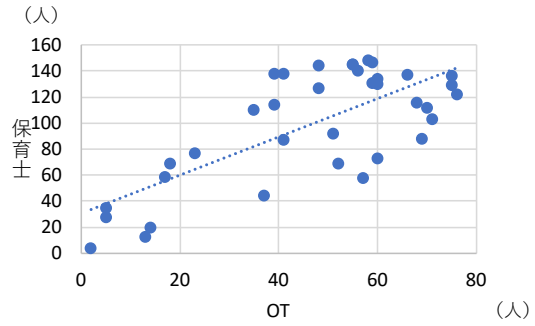
PTと看護職



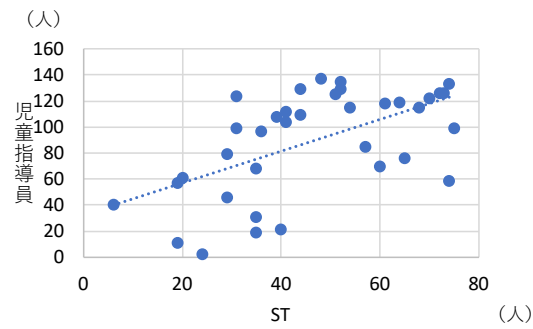
OTと看護職



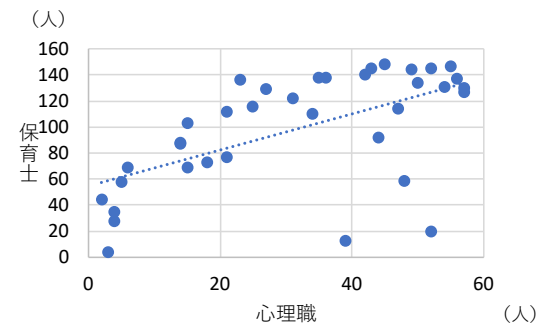
OTと保育士



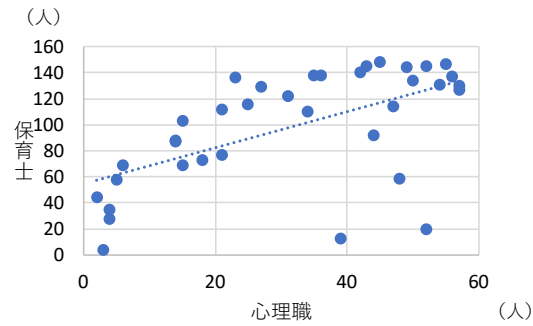
STと児童指導員



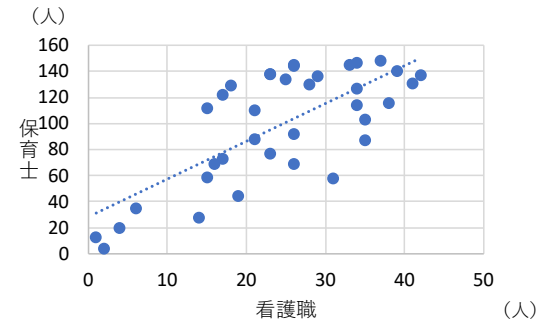
心理職と保育士



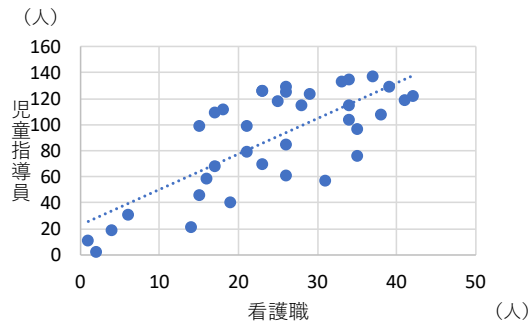
心理職と保育士



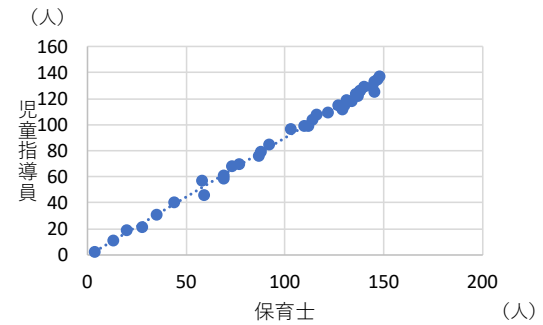
看護職と保育士



看護職と児童指導員



保育士と児童指導員



この相関関係グラフより、線形に近ければ近いほど2つの職種に共通項があることになる。

線形に寄っているほど、仕事内容が似ていると言える。特に保育士と児童指導員がほぼ線形に近く分布していることから、同様の支援をしていると思われる。

また、保育士は言語聴覚士、心理職と相関があり、作業療法士、看護職と相関が高い、児童指導員とは非常に相関が高いことがわかる。

児童指導員は、言語聴覚士、心理職と相関があり、作業療法士、看護職と相関が高く保育士とは非常に相関が高い。

作業療法士は、看護職と相関があり、理学療法士、保育士、児童指導員との相関が高い。

看護職は、作業療法士と相関があり、理学療法士、保育士、児童指導員と相関が高くなっていた。

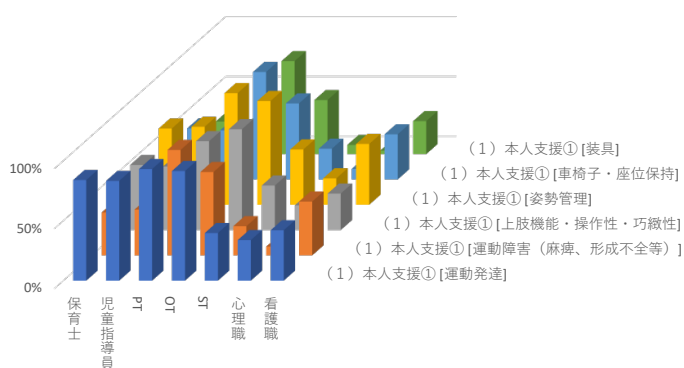
これらのデータより、各職種間では、支援項目のほとんどに数値の大小はあるが、関連性があり、支援に携わっていることがわかる。

いわゆるどの職種も他職種の仕事をしていることがわかる。

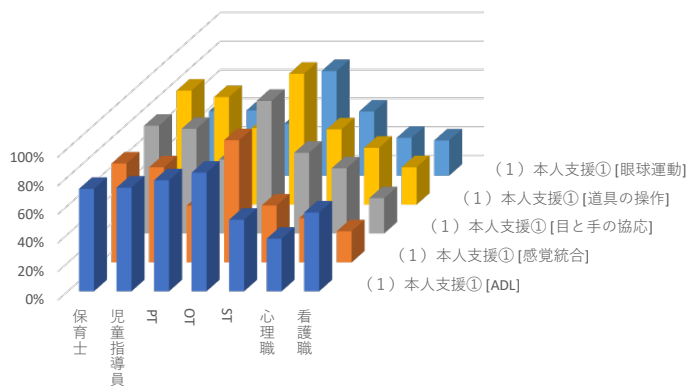
しかし、より専門的な支援内容は、専門職が行っていることがわかる。

また、保育士と児童指導員は、ほとんどの職種の本人支援を行っている。

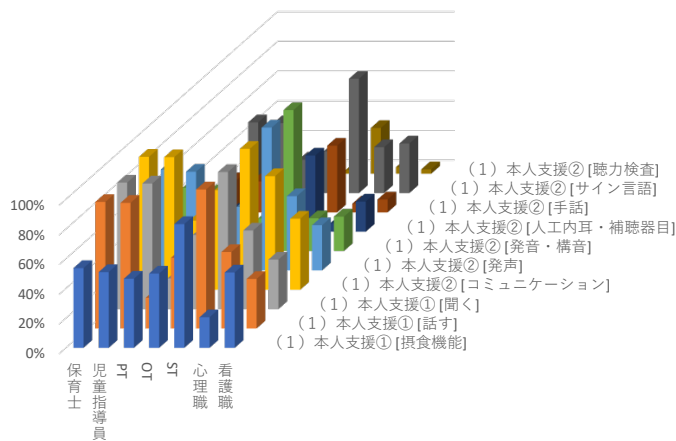
これらは、下記のステレオグラム（三次元棒グラフ:グラフ1）からも見て取れる。
グラフ1



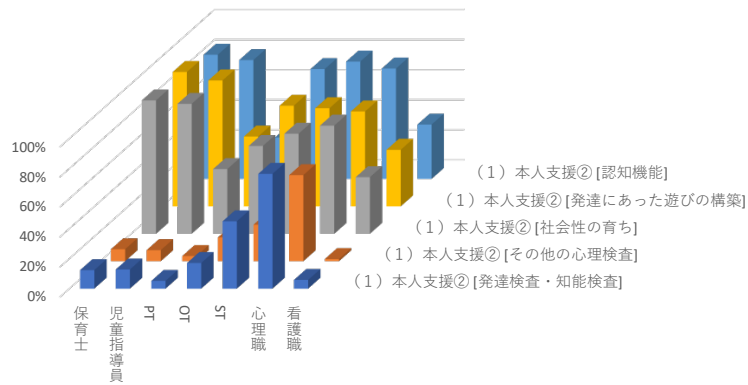
PT領域	保育士	児童指導員	PT	OT	ST	心理職	看護職
(1) 本人支援① [運動発達]	136 (84%)	124 (83%)	54 (93%)	75 (91%)	31 (40%)	23 (34%)	29 (42%)
(1) 本人支援① [運動障害 (麻痺、形成不全等)]	58 (36%)	57 (38%)	51 (88%)	57 (70%)	19 (24%)	5 (7%)	31 (45%)
(1) 本人支援① [上肢機能・操作性・巧緻性]	88 (54%)	79 (53%)	43 (74%)	69 (84%)	29 (37%)	14 (21%)	21 (30%)
(1) 本人支援① [姿勢管理]	103 (64%)	97 (65%)	54 (93%)	71 (87%)	36 (46%)	15 (22%)	35 (51%)
(1) 本人支援① [車椅子・座位保持]	69 (43%)	61 (41%)	52 (90%)	52 (63%)	20 (26%)	6 (9%)	26 (38%)
(1) 本人支援① [装具]	44 (27%)	40 (27%)	45 (78%)	37 (45%)	6 (8%)	2 (3%)	19 (28%)



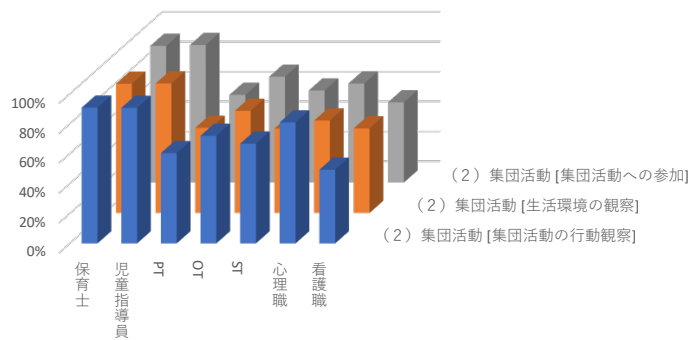
OT領域	保育士	児童指導員	PT	OT	ST	心理職	看護職
(1) 本人支援① [ADL]	116 (72%)	108 (72%)	45 (78%)	68 (83%)	39 (50%)	25 (37%)	38 (55%)
(1) 本人支援① [感覚統合]	112 (69%)	99 (66%)	23 (40%)	70 (85%)	31 (40%)	21 (31%)	15 (22%)
(1) 本人支援① [目と手の協応]	122 (75%)	109 (73%)	30 (52%)	76 (93%)	44 (56%)	31 (46%)	17 (25%)
(1) 本人支援① [道具の操作]	129 (80%)	112 (75%)	31 (53%)	75 (91%)	41 (53%)	27 (40%)	18 (26%)
(1) 本人支援① [眼球運動]	73 (45%)	68 (46%)	21 (36%)	60 (73%)	35 (45%)	18 (26%)	17 (25%)



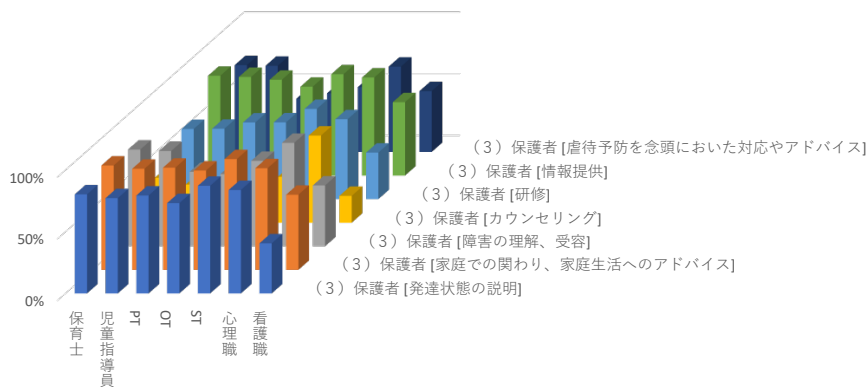
ST領域	保育士	児童指導員	PT	OT	ST	心理職	看護職
(1) 本人支援① [摂食機能]	87 (54%)	76 (51%)	27 (47%)	41 (50%)	65 (83%)	14 (21%)	35 (51%)
(1) 本人支援① [話す]	138 (85%)	126 (85%)	12 (21%)	39 (48%)	73 (94%)	35 (51%)	23 (33%)
(1) 本人支援① [聞く]	138 (85%)	126 (85%)	12 (21%)	41 (50%)	72 (92%)	36 (53%)	23 (33%)
(1) 本人支援② [コミュニケーション]	145 (90%)	133 (89%)	27 (47%)	55 (67%)	74 (95%)	52 (76%)	33 (48%)
(1) 本人支援② [発声]	110 (68%)	99 (66%)	13 (22%)	35 (43%)	75 (96%)	34 (50%)	21 (30%)
(1) 本人支援② [発音・構音]	69 (43%)	59 (40%)	6 (10%)	18 (22%)	74 (95%)	15 (22%)	16 (23%)
(1) 本人支援② [人工内耳・補聴器目]	28 (17%)	21 (14%)	1 (2%)	5 (6%)	40 (51%)	4 (6%)	14 (20%)
(1) 本人支援② [手話]	35 (22%)	31 (21%)	4 (7%)	5 (6%)	35 (45%)	4 (6%)	6 (9%)
(1) 本人支援② [サイン言語]	77 (48%)	70 (47%)	13 (22%)	23 (28%)	60 (77%)	21 (31%)	23 (33%)
(1) 本人支援② [聴力検査]	4 (2%)	2 (1%)	0 (0%)	2 (2%)	24 (31%)	3 (4%)	2 (3%)



心理職領域	保育士	児童指導員	PT	OT	ST	心理職	看護職
(1) 本人支援② [発達検査・知能検査]	20 (12%)	19 (13%)	3 (5%)	14 (17%)	35 (45%)	52 (76%)	4 (6%)
(1) 本人支援② [その他の心理検査]	13 (8%)	11 (7%)	2 (3%)	13 (16%)	19 (24%)	39 (57%)	1 (1%)
(1) 本人支援② [社会性の育ち]	144 (89%)	129 (87%)	25 (43%)	48 (59%)	52 (67%)	49 (72%)	26 (38%)
(1) 本人支援② [発達にあった遊びの構築]	145 (90%)	125 (84%)	27 (47%)	55 (67%)	51 (65%)	43 (63%)	26 (38%)
(1) 本人支援② [認知機能]	134 (83%)	118 (79%)	16 (28%)	60 (73%)	61 (78%)	50 (74%)	25 (36%)



集団活動	保育士	児童指導員	PT	OT	ST	心理職	看護職
(2) 集団活動 [集団活動への参加]	148 (91%)	137 (92%)	34 (59%)	58 (71%)	48 (62%)	45 (66%)	37 (54%)
(2) 集団活動 [生活環境の観察]	140 (86%)	129 (87%)	33 (57%)	56 (68%)	44 (56%)	42 (62%)	39 (57%)
(2) 集団活動 [集団活動の行動観察]	147 (91%)	135 (91%)	35 (60%)	59 (72%)	52 (67%)	55 (81%)	34 (49%)



保護者支援	保育士	児童指導員	PT	OT	ST	心理職	看護職
(3) 保護者 [発達状態の説明]	130 (80%)	115 (77%)	46 (79%)	60 (73%)	68 (87%)	57 (84%)	28 (41%)
(3) 保護者 [家庭での関わり、家庭生活へのアドバイス]	137 (85%)	122 (82%)	48 (83%)	66 (80%)	70 (90%)	56 (82%)	42 (61%)
(3) 保護者 [障害の理解、受容]	127 (78%)	115 (77%)	35 (60%)	48 (59%)	54 (69%)	57 (84%)	34 (49%)
(3) 保護者 [カウンセリング]	59 (36%)	46 (31%)	11 (19%)	17 (21%)	29 (37%)	48 (71%)	15 (22%)
(3) 保護者 [研修]	92 (57%)	85 (57%)	36 (62%)	51 (62%)	57 (73%)	44 (65%)	26 (38%)
(3) 保護者 [情報提供]	131 (81%)	119 (80%)	45 (78%)	59 (72%)	64 (82%)	54 (79%)	41 (59%)
(3) 保護者 [虐待予防を念頭においた対応やアドバイス]	114 (70%)	104 (70%)	25 (43%)	39 (48%)	41 (53%)	47 (69%)	34 (49%)

これらのデータより、各事業所で支援をしている各職種の支援内容では、心理職が専門とする発達検査や知能検査・その他の検査において主に心理職が行っていることがわかる。

集団活動においては、保育士・児童指導員が多く行っている。

理学療法士・作業療法士・言語療法士・心理職・看護職は、専門的な支援を多く行っている。

しかし、どの職種間も関連性はある、業種を超えて支援を行っている事がわかる。

これらの事より、互いの職種の専門用語や基本的知識がわかり、共通言語を兼ね備えることで、「質の良い支援」がおこなわれていくものと思われる。

次に、各職種別の支援の実態をセンターとセンター以外に分けると、下記の職種表とステレオグラム（三次元棒グラフ）となる。

これらの結果よりセンターとセンター以外の10ポイント差がある領域を比較する。

PTでは、センター以外のOT、ST、心理職、集団活動でセンターより高いポイント差がみられ、PT領域はもちろん、保護者支援も行っているのがわかる。

OTでは、センターがPT、OT、保護者支援の領域でポイントが高くみられ、センター以外では、ST領域、集団活動にみられる。

STでは、センター以外が、PT、OT、心理領域、集団活動の領域で高くみられ、ST領域以外の各領域の支援も行っていることがわかる。

心理職では、センターの心理職が (1) 本人支援② [発達検査・知能検査]

(1) 本人支援② [その他の心理検査] (1) 本人支援② [社会性の育ち]

(1) 本人支援② [発達にあった遊びの構築]

(1) 本人支援② [認知機能] の心理職の専門とする支援を多く行っている。(参考資料：センターとセンター以外の表) それに比してセンター以外では、各専門職領域や集団活動、保護者支援を行っている。

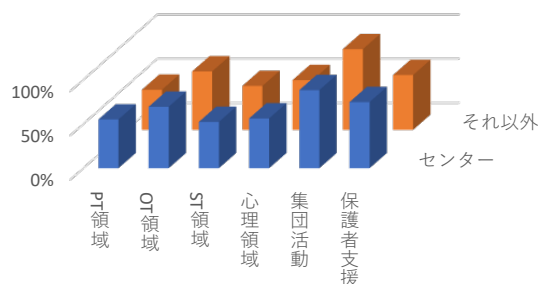
看護師は、センター以外において、PT、OT、心理、集団活動がセンターよりも10ポイント以上多く、センター以外の事業所では各領域の支援を行っている。

保育士・児童指導員においては、センターとセンター以外の各領域には大きな差はなく、どちらも各領域の専門的なことや集団活動、保護者支援をしている。

センターとセンター以外 表とグラフ 2

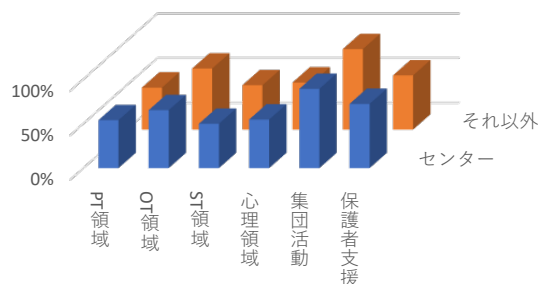
保育士

各種支援の実態調査	センター	それ以外
PT領域	55%	45%
OT領域	69%	66%
ST領域	52%	50%
心理領域	56%	56%
集団活動	88%	91%
保護者支援	75%	62%



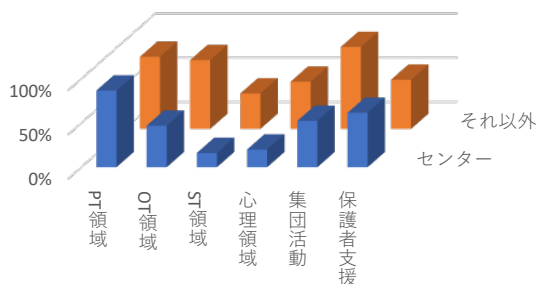
児童指導員

各種支援の実態調査	センター	それ以外
PT領域	54%	47%
OT領域	65%	69%
ST領域	50%	50%
心理領域	55%	53%
集団活動	89%	91%
保護者支援	72%	61%



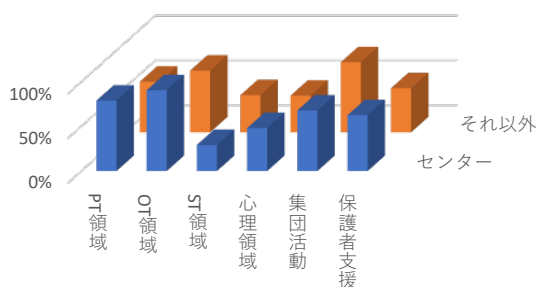
PT

各種支援の実態調査	センター	それ以外
PT領域	87%	81%
OT領域	47%	78%
ST領域	16%	40%
心理領域	20%	53%
集団活動	52%	93%
保護者支援	62%	56%



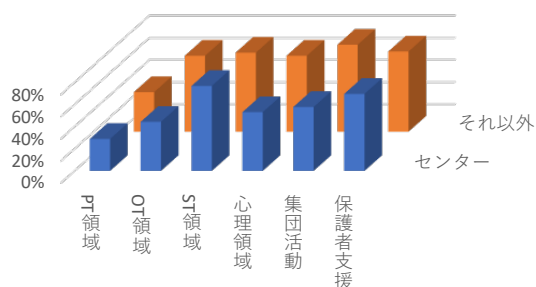
OT

各種支援の実態調査	センター	それ以外
PT領域	79%	57%
OT領域	90%	69%
ST領域	29%	42%
心理領域	48%	41%
集団活動	68%	78%
保護者支援	62%	49%



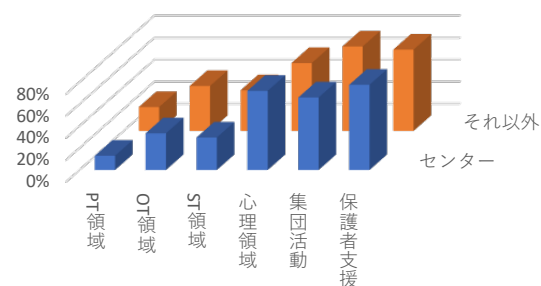
ST

各種支援の実態調査	センター	それ以外
PT領域	29%	36%
OT領域	44%	69%
ST領域	77%	71%
心理領域	53%	69%
集団活動	58%	79%
保護者支援	70%	72%



心理職

各種支援の実態調査	センター	それ以外
PT領域	13%	22%
OT領域	33%	41%
ST領域	30%	37%
心理領域	72%	62%
集団活動	66%	77%
保護者支援	77%	74%



看護職

各種支援の実態調査	センター	それ以外
PT領域	37%	45%
OT領域	28%	40%
ST領域	25%	43%
心理領域	19%	41%
集団活動	50%	64%
保護者支援	49%	34%

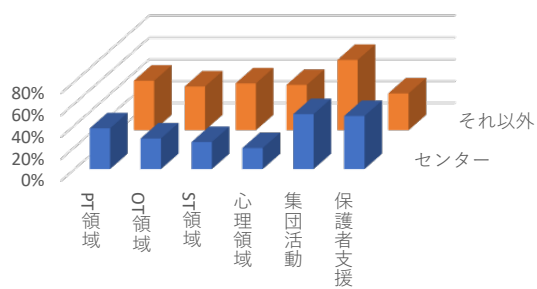


表3 : センターとセンター以外 センターが10ポイント高い ■ それ以外が高い ■

PT領域	センター		それ以外		センター		それ以外		センター		それ以外		センター		それ以外	
	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外
(1) 本人支援① [運動発達]	82.5%	86.2%	80.9%	86.7%	91.8%	100.0%	95.2%	80.0%	35.9%	57.1%	31.1%	39.1%	38.2%	57.1%		
(1) 本人支援① [運動障害 (麻痺、形成不全等)]	44.3%	23.1%	43.8%	30.0%	91.8%	66.7%	75.8%	50.0%	29.7%	0.0%	8.9%	4.3%	43.6%	50.0%		
(1) 本人支援① [上肢機能・操作性・巧緻性]	60.8%	44.6%	59.6%	43.3%	71.4%	88.9%	91.9%	60.0%	37.5%	35.7%	17.8%	26.1%	30.9%	28.6%		
(1) 本人支援① [姿勢管理]	63.9%	63.1%	64.0%	66.7%	93.9%	88.9%	88.7%	80.0%	40.6%	71.4%	11.1%	43.5%	47.3%	64.3%		
(1) 本人支援① [車椅子・座位保持]	44.3%	40.0%	42.7%	38.3%	89.8%	88.9%	69.4%	45.0%	21.9%	42.9%	4.4%	17.4%	36.4%	42.9%		
(1) 本人支援① [装具]	35.1%	15.4%	32.6%	18.3%	81.6%	55.6%	51.6%	25.0%	7.8%	7.1%	4.4%	0.0%	27.3%	28.6%		
平均	55.2%	45.4%	53.9%	47.2%	86.7%	81.5%	78.8%	56.7%	28.9%	35.7%	13.0%	21.7%	37.3%	45.2%		

各種支援の実態調査 OT領域	保育士		児童指導員		PT		OT		ST		心理職		看護職	
	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外
(1) 本人支援① [ADL]	79.4%	60.0%	78.7%	63.3%	75.5%	88.9%	90.3%	60.0%	46.9%	64.3%	37.8%	34.8%	52.7%	64.3%
(1) 本人支援① [感覚統合]	67.0%	72.3%	61.8%	73.3%	28.6%	100.0%	91.9%	65.0%	31.3%	78.6%	22.2%	47.8%	18.2%	35.7%
(1) 本人支援① [目と手の協応]	74.2%	76.9%	69.7%	78.3%	46.9%	77.8%	96.8%	80.0%	51.6%	78.6%	42.2%	52.2%	20.0%	42.9%
(1) 本人支援① [道具の操作]	78.4%	81.5%	71.9%	80.0%	49.0%	77.8%	96.8%	75.0%	48.4%	71.4%	35.6%	47.8%	23.6%	35.7%
(1) 本人支援① [眼球運動]	48.5%	40.0%	43.8%	48.3%	34.7%	44.4%	75.8%	65.0%	43.8%	50.0%	28.9%	21.7%	25.5%	21.4%
平均	69.5%	66.2%	65.2%	68.7%	46.9%	77.8%	90.3%	69.0%	44.4%	68.6%	33.3%	40.9%	28.0%	40.0%

各種支援の実態調査 ST領域	保育士		児童指導員		PT		OT		ST		心理職		看護職	
	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外
(1) 本人支援① [摂食機能]	63.9%	38.5%	59.6%	38.3%	42.9%	66.7%	51.6%	45.0%	84.4%	78.6%	20.0%	21.7%	50.9%	50.0%
(1) 本人支援① [話す]	83.5%	87.7%	82.0%	88.3%	16.3%	44.4%	40.3%	70.0%	92.2%	100.0%	44.4%	65.2%	29.1%	50.0%
(1) 本人支援① [聞く]	83.5%	87.7%	82.0%	88.3%	16.3%	44.4%	45.2%	65.0%	92.2%	92.9%	46.7%	65.2%	29.1%	50.0%
(1) 本人支援② [コミュニケーション]	86.6%	93.8%	86.5%	93.3%	38.8%	88.9%	66.1%	70.0%	95.3%	92.9%	71.1%	87.0%	40.0%	78.6%
(1) 本人支援② [発声]	66.0%	70.8%	64.0%	70.0%	18.4%	44.4%	37.1%	60.0%	95.3%	100.0%	44.4%	60.9%	23.6%	57.1%
(1) 本人支援② [発音・構音]	38.1%	49.2%	33.7%	48.3%	8.2%	22.2%	17.7%	35.0%	93.8%	100.0%	15.6%	34.8%	16.4%	50.0%
(1) 本人支援② [人工内耳・補聴器目]	21.6%	10.8%	18.0%	8.3%	0.0%	11.1%	6.5%	5.0%	56.3%	28.6%	6.7%	4.3%	20.0%	21.4%
(1) 本人支援② [手話]	26.8%	13.8%	24.7%	15.0%	2.0%	33.3%	3.2%	15.0%	46.9%	35.7%	8.9%	0.0%	5.5%	21.4%
(1) 本人支援② [サイン言語]	51.5%	41.5%	48.3%	45.0%	18.4%	44.4%	24.2%	40.0%	78.1%	71.4%	31.1%	30.4%	30.9%	42.9%
(1) 本人支援② [聴力検査]	2.1%	3.1%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	34.4%	14.3%	6.7%	0.0%	1.8%	7.1%
平均	52.4%	49.7%	49.9%	49.8%	16.1%	40.0%	29.2%	41.5%	76.9%	71.4%	29.6%	37.0%	24.7%	42.9%

各種支援の実態調査 心理職領域	保育士		児童指導員		PT		OT		ST		心理職		看護職	
	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外
	(1) 本人支援② [発達検査・知能検査]	16.5%	6.2%	14.6%	10.0%	4.1%	11.1%	19.4%	10.0%	42.2%	57.1%	84.4%	60.9%	5.5%
(1) 本人支援② [その他の心理検査]	5.2%	12.3%	5.6%	10.0%	2.0%	11.1%	17.7%	10.0%	21.9%	35.7%	62.2%	47.8%	1.8%	0.0%
(1) 本人支援② [社会性の育ち]	87.6%	90.8%	86.5%	86.7%	32.7%	100.0%	56.5%	65.0%	64.1%	78.6%	73.3%	69.6%	29.1%	71.4%
(1) 本人支援② [発達にあった遊びの構築]	88.7%	90.8%	85.4%	81.7%	40.8%	77.8%	69.4%	60.0%	60.9%	85.7%	64.4%	60.9%	30.9%	64.3%
(1) 本人支援② [認知機能]	83.5%	81.5%	80.9%	76.7%	20.4%	66.7%	77.4%	60.0%	76.6%	85.7%	75.6%	69.6%	29.1%	64.3%
平均	56.3%	56.3%	54.6%	53.0%	20.0%	53.3%	48.1%	41.0%	53.1%	68.6%	72.0%	61.7%	19.3%	41.4%

各種支援の実態調査 集団活動	保育士		児童指導員		PT		OT		ST		心理職		看護職	
	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外
	(2) 集団活動 [集団活動の行動観察]	88.7%	93.8%	89.9%	91.7%	53.1%	100.0%	69.4%	80.0%	62.5%	85.7%	80.0%	82.6%	45.5%
(2) 集団活動 [生活環境の観察]	86.6%	86.2%	86.5%	86.7%	49.0%	100.0%	66.1%	75.0%	53.1%	71.4%	55.6%	73.9%	54.5%	64.3%
(2) 集団活動 [集団活動への参加]	89.7%	93.8%	91.0%	93.3%	55.1%	77.8%	67.7%	80.0%	57.8%	78.6%	62.2%	73.9%	50.9%	64.3%
平均	88.3%	91.3%	89.1%	90.6%	52.4%	92.6%	67.7%	78.3%	57.8%	78.6%	65.9%	76.8%	50.3%	64.3%

各種支援の実態調査 保護者支援	保育士		児童指導員		PT		OT		ST		心理職		看護職	
	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外	センター	それ以外
	(3) 保護者 [発達状態の説明]	84.5%	73.8%	77.5%	76.7%	77.6%	88.9%	74.2%	70.0%	84.4%	100.0%	86.7%	78.3%	43.6%
(3) 保護者 [家庭での関わり、家庭生活へのアドバイス]	88.7%	78.5%	86.5%	75.0%	81.6%	88.9%	83.9%	70.0%	87.5%	100.0%	82.2%	82.6%	63.6%	50.0%
(3) 保護者 [障害の理解、受容]	83.5%	70.8%	83.1%	68.3%	63.3%	44.4%	58.1%	60.0%	67.2%	78.6%	84.4%	82.6%	50.9%	42.9%
(3) 保護者 [カウンセリング]	38.1%	33.8%	33.7%	26.7%	20.4%	11.1%	22.6%	15.0%	35.9%	42.9%	75.6%	60.9%	23.6%	14.3%
(3) 保護者 [研修]	69.1%	38.5%	67.4%	41.7%	67.3%	33.3%	75.8%	20.0%	78.1%	50.0%	71.1%	52.2%	41.8%	21.4%
(3) 保護者 [情報提供]	84.5%	75.4%	82.0%	76.7%	75.5%	88.9%	75.8%	60.0%	81.3%	85.7%	75.6%	87.0%	63.6%	42.9%
(3) 保護者 [虐待予防を念頭においた対応やアドバイス]	75.3%	63.1%	75.3%	61.7%	44.9%	33.3%	46.8%	50.0%	53.1%	50.0%	66.7%	73.9%	52.7%	35.7%
平均	74.8%	62.0%	72.2%	61.0%	61.5%	55.6%	62.4%	49.3%	69.6%	72.4%	77.5%	73.9%	48.6%	33.7%

表4：センター・重症児・その他職種間相関係数

センター	保育士	児童指導員	PT	OT	ST	心理職	看護職
保育士							
児童指導員	0.998						
PT	0.521	0.514					
OT	0.757	0.746	0.747				
ST	0.557	0.561	-0.109	0.089			
心理職	0.462	0.476	0.012	0.176	0.492		
看護職	0.741	0.749	0.738	0.586	0.354	0.279	

医療+重症児	保育士	児童指導員	PT	OT	ST	心理職	看護職
保育士							
児童指導員	0.962						
PT	0.367	0.398					
OT	0.507	0.486	0.807				
ST	0.372	0.257	-0.248	-0.215			
心理職	0.545	0.559	0.014	0.135	0.217		
看護職	0.683	0.699	0.669	0.515	0.274	0.401	

その他	保育士	児童指導員	PT	OT	ST	心理職	看護職
保育士							
児童指導員	0.992						
PT	0.681	0.681					
OT	0.889	0.916	0.752				
ST	0.781	0.789	0.361	0.618			
心理職	0.746	0.731	0.378	0.547	0.745		
看護職	0.872	0.856	0.621	0.776	0.674	0.614	

	非常に高い(0.9 以上)
	高い(0.7~0.9 未満)
	相関あり(0.5~0.7 未満)

次に上記 表4の相関図より福祉型センターと医療型+重症児とその他職種間相関係数の比較を試みる。

福祉型児童発達支援センターは、それぞれの職種が他職種の支援内容にも関わりながら、行っていることがわかる。

特に保育士、児童指導員が、専門職の仕事にも携わっていることがわかる。そこからうかがえることは、保育士、児童指導員が各専門職の分野の知識や具体的支援の仕方を身に付けながら、関わっていると思われる。

次に医療型+重症児では、看護師と専門職や保育士・児童指導員と相関関係があるが、PT、OT、ST、心理職との相関関係は薄く、各々の専門職としての支援をしていることが多いのではないかと推察される。いわゆる専門の職種を各々分業していることがわかる。

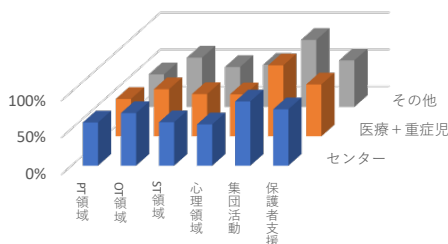
指定医療型児童発達支援センターは、保育士・児童指導員の必要人数が各1人以上と福祉型児童発達支援センターに比し、少ない人数の配置である。その中でも保育士・児童指導員は、相関性が非常に強いことがわかる。

それ以外の事業所では、それぞれの職種が他職種の仕事を割と満遍なく関わりながら、支援していることがわかる。これを更に分析していくと、次の表になる。

表とグラフ5：センターと医療型+重症児とその他

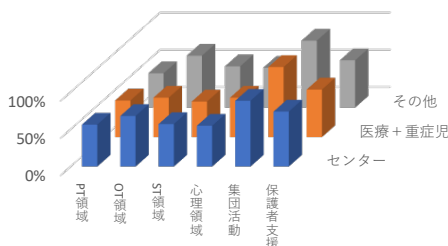
保育士

各種支援の実態調査	センター	医療+重症児	その他
PT領域	59%	51%	44%
OT領域	71%	64%	67%
ST領域	59%	57%	54%
心理領域	56%	57%	57%
集団活動	87%	96%	91%
保護者支援	76%	70%	63%



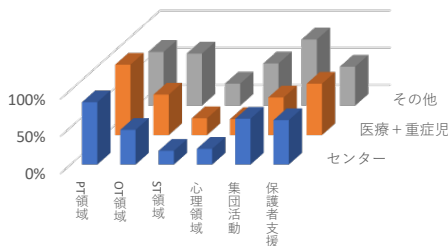
児童指導員

各種支援の実態調査	センター	医療+重症児	その他
PT領域	56%	49%	46%
OT領域	68%	53%	70%
ST領域	57%	48%	56%
心理領域	55%	53%	54%
集団活動	88%	94%	90%
保護者支援	74%	64%	64%



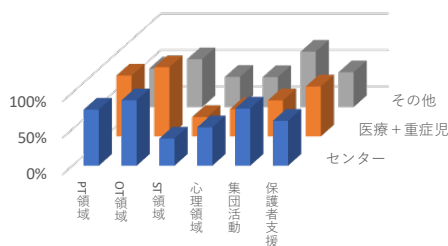
PT

各種支援の実態調査	センター	医療+重症児	その他
PT領域	84%	95%	72%
OT領域	47%	54%	70%
ST領域	19%	23%	30%
心理領域	21%	22%	57%
集団活動	62%	51%	89%
保護者支援	60%	69%	52%



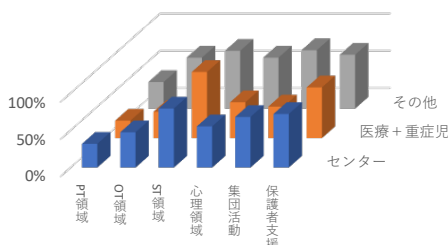
OT

各種支援の実態調査	センター	医療+重症児	その他
PT領域	77%	83%	53%
OT領域	90%	95%	66%
ST領域	37%	27%	41%
心理領域	53%	37%	41%
集団活動	78%	49%	76%
保護者支援	61%	68%	48%



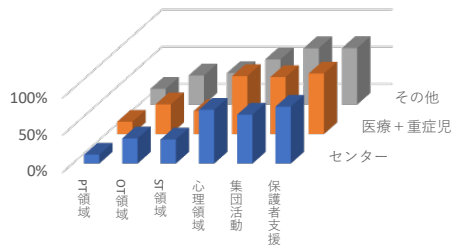
ST

各種支援の実態調査	センター	医療+重症児	その他
PT領域	32%	23%	36%
OT領域	48%	35%	69%
ST領域	79%	89%	78%
心理領域	55%	48%	69%
集団活動	68%	42%	79%
保護者支援	72%	68%	72%



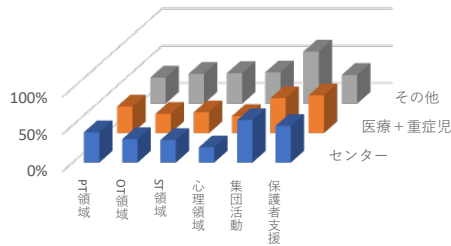
心理職

各種支援の実態調査	センター	医療+重症児	その他
PT領域	12%	17%	21%
OT領域	34%	40%	39%
ST領域	32%	31%	42%
心理領域	72%	78%	61%
集団活動	66%	77%	76%
保護者支援	77%	81%	76%



看護職

各種支援の実態調査	センター	医療+重症児	その他
PT領域	41%	36%	35%
OT領域	32%	26%	40%
ST領域	30%	28%	41%
心理領域	21%	23%	42%
集団活動	57%	47%	70%
保護者支援	49%	51%	39%



II. 考察

どの職種間も関連性はある、業種を超えて支援を行っている事がわかる。

これらの事より、互いの職種の専門用語や基本的知識がわかり、共通言語を兼ね備えることで、「質の良い支援」がおこなわれていくものと思われる。

これらのデータより、児童発達支援センターが地域の中核的役割を担うため、障害種別にこだわらず障害児やその保護者に質の良い支援ができるよう福祉型と医療型の一元化を推し進めていくことが求められている。

また、各職種が専門職としての個々ではなく、子どもに関わる職員がチームワークを作り、自分の分野の知識を他職種に対してコーティングを行い、指導的アプローチを行うことで、一人ひとりの職員が分野を超えた知識を身に付けることができる。そうすることで、直接支援をしているすべての職員が、通園する子どもや保護者と信頼関係を構築しながら、日々の療育の中で質の良い支援を受けることができるものと思われる。

昨今では、医療モデルの支援から生活モデルの支援へと転換してきており、地域で障害があっても共に生活していけるような支援が求められている。

つまりは、各職種の支援をチームワークで行い、子どもや保護者、家族と信頼関係を築いたうえで、地域で生活できるような本人支援をすること、保護者・家族支援が出来る事、保護者の就労支援もできる事、また療育・保育の場や学びの場の移行支援など、一人ひとりが抱える課題を解決することが「質の良い支援」と言えるであろう。